外科（4週）

目的

生命倫理に基づきプライマリー・ケアに必要な臨床外科的基本知識と技術を修得し、さらに患者の全体像を据えた全人的医療を身につけることを目的とする。

基本的目標

・すべての臨床医に求められる基本的な診療に必要な知識・技能・態度を修得する。
・患者が持つ問題を、心理的・社会的側面をも含めて全人的に据えて適切に解決し、説明・指導する能力を修得する。
・チーム医療についての理解を深め、他の医療メンバーと協調できる習慣を身につける。
・救命・救急を含むプライマリケアに関する知識と技能を修得する。
・指導医、他科又は他施設に委ねるべき患者、或いは問題を適切に判断、対応しうる能力を修得する。
・医療評価ができる適切な診療録を作成する能力を身につける。
・臨床を通じて判断力及び創造力を培い、自己評価をし、第三者の評価を受け入れ、フィードバックする態度を身につける。

教育課程

（１）研修方法

①３ヶ月

外科全般の基礎的研修を行い、特に外科的な基礎知識、基本的な検査法、処置、小手術等の修得を研修する。

（２）週間予定（カンファレンス・手術・検査等）

①カンファレンス

月、木曜日：８：００～８：３０　術前・術後カンファレンス
水曜日：１７：３０～１９：００　３科合同（外科・放射線科・内科）
月曜日：１７：３０～１８：３０　外科勉強会

（３）研修内容と到達目標

指導医の下で、以下の項目を修得し、外科医としての基礎を確立することを目標とする。

①基本的診察法

ア）病歴の聴取
イ）系統的理学所見の取り方とその評価
ウ）鑑別診断
エ）確定診断及び治療に至るｐｌａｎｎｉｎｇ
オ）インフォームドコンセント

②検査法（１）

ア）必要に応じて自ら実施し、結果を解釈できるように修練すべき検査
血液型判定、血液交差適合試験、心電図など。

イ）適切に選択・指示し、結果を解釈できるように修練すべき検査
検尿、検便、ＣＢＣ、出血時間、血糖値、血液ガス分析、血液生化学検査、肝機能検査、免疫学的検査、内分泌機能検査、腎機能検査、心機能検査、肺機能検査、細菌学的検査、薬剤感受性検査、細胞診・病理組織検査、胸・腹部・四肢等単純Ｘ線検査など。

③検査法（２）
ア）自ら実施し、結果を解釈できるように修練すべき検査
超音波検査。
イ）施行に際し、介助或いは一部実施し、結果を解釈できるように修練すべき検査
消化管造影検査、瘻孔造影、気管支鏡検査、（選択的）血管造影（塞栓術・カニュレーションも含む。）、ＰＴＣ、ＥＲＣＰ、大腸内視鏡検査
ウ）適切に選択・指示し結果を解釈できるように修練すべき検査
胸部断層撮影、ＣＴ、ＭＲＩ、シンチグラム、上部消化管通常内視鏡検査
④処置及び手技
ア）適応を判断し、自ら実施できるように修練すべき基本的処置・手技
注射法、採血法、導尿、浣腸、胃管挿入、滅菌消毒法、局所麻酔、簡単な創傷処理法、切開排膿法、包帯法
イ）施行に際し、介助或いは一部実施することができるように修練すべき処置・手技
胸腔穿刺、腹腔穿刺、心嚢穿刺、中心静脈穿刺、ＰＴＣＤ、気管切開、複雑な創傷処理法、超音波下穿刺（造影、薬液注入、組織採取、カテーテル留置）など
⑤基本的治療法
ア）自ら適応を判断し、実施できるように修練すべきもの
一般薬剤の処方、輸液、輸血、抗生物質の投与、抗癌剤の投与
イ）自ら適応を判断し、指導医のもとで実施できるように修練すべきもの
呼吸管理、循環管理、中心静脈栄養法、結腸栄養法、食事療法
⑥麻酔・救急
３か月間は麻酔科に出向し、麻酔及び救急に携わり、以下の項を修得する。
ア）緊急を要する疾患、または外傷を持つ患者の初期診療に関する臨床的能力を身につける。
イ）急処置を要する患者であるかどうかを判断できるよう修練する。
ウ）心肺蘇生法に関する知識と技術的手技を修得する。
気管内挿管を含めた気道の確保、人工呼吸法、心マッサージ、緊急薬剤の使用法、除細動など
エ）麻酔に必要な知識と基本的手技を修得する。
静脈路確保、気道確保（下顎保持、エアウエイ挿入）、気管内挿管、硬膜外腔穿刺、動脈内カテーテル留置、麻酔薬・筋弛緩薬の正しい使用
⑦手術療法
ア）各種診断法により得られたデータをもとに外科的疾患の状況を正しく把握し、さらに患者のｓｕｒｇｉｃａｌ　ｒｉｓｋや心理的･社会的側面を評価した上で手術適応を決定することができるように修練する。
イ）定型的外科手術の経験と手技の修得
ａ）上級医師の指導の下に自ら執刀できるように修得すべき手術
開腹・閉腹、虫垂切除術、ソケイヘルニア手術、痔手術（簡単なもの）など
ｂ）介助（第１又は第２助手）ができるように手技を修得すべき手術
胃切除術、胃瘻・腸瘻造設術、胃腸吻合術、胃部分切除術（リンパ郭清を伴わないもの）、胆嚢摘除術、Ｔ－ｔｕｂｅドレナージ、人工肛門造設術、結腸部分切除術、開胸・閉胸、腹腔鏡手術、胸腔鏡手術、広範囲胃切除術、胃（亜）全摘術、

食道切除・再建術、結腸半切除術、直腸切除（切断）術、肝切除術、急性膵炎の手術、膵切除術、膵頭十二指腸切除術、腸閉塞手術、肺切除術、乳癌根治手術など

（４）研修医の勤務時間

８：１５から１７：００を原則とするが、時間外緊急手術又は受持患者の処置等で勤務時間外に診療を行うことも多い。

（５）指導体制

研修医は、常にその期間の指導医の監督のもとに行動、診療することを原則とする。特に危険を伴うと考えられる検査、処置及び手術は、担当指導医の監視のもとで行う。

6　研修医の評価

受持症例のリスト、検査・処置リスト及び手術症例リストを随時点検し、指導責任者とともに、その研修内容を評価し、以後の研修をより充実させるよう努力する。